

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年10月24日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
10月29日（土） 13:30～17:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム:歴史総合をめぐって (6)「歴史総合」の教科書と授業を検討する」
10月30日（日） 13:30～15:30	京都烏丸コンベンションホール	市民公開講座 「健康寿命延伸は高血圧管理から～さあ家庭で自分の血圧を測りましょう!～」
11月5日（土） 10:00～17:00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「日本の社会・産業をリードする化学系博士人材とは～産学で取り組む博士人材育成と、これから博士を目指す学生への期待～」
11月5日（土） 10:30～12:00	テレコムセンター1F大ステージ	公開シンポジウム 「私たちの地球はどんな惑星かー科学を混ぜて地球を探る」
11月5日（土） 13:00～17:10	オンライン開催	学術フォーラム 「安心感への多面的アプローチ」
11月5日（土） 13:30～16:30	同志社大学今出川キャンパス良心館地下1教室（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「自治体とエネルギー政策」
11月5日（土） 13:30～16:55	東北大学片平キャンパス片平さくらホール（ハイブリッド開催）	日本学術会議 in 宮城 公開学術講演会 「積雪・寒冷地域における暮らしのこれまでとこれからー持続可能な発展のための氷雪圏からの視座」
11月8日（火） 13:00～17:30	日本学術会議講堂	公開シンポジウム 「カーボンニュートラル化と資源循環に向けた高分子化学のチャレンジ」
11月12日（土） 10:00～12:10	オンライン開催	公開シンポジウム 「動物のワクチン～家畜を中心に～」
11月12日（土） 10:00～18:35	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウムー日本の電波科学研究の発展並びに URSI 日本の歩みー」

11月13日(日) 14:00~17:00	追手門学院大学 総持寺キャンパス	公開シンポジウム 「コロナ・パンデミックと格差・分断・貧困ー 現状と今後ー」
11月15日(火) 13:00~17:40	日本学術会議講 堂(ハイブリッ ド開催)	公開シンポジウム 「異なるモダリティを統合するバイオ計測の 最前線と展望」
11月15日(火) 13:00~	オンライン開催	公開シンポジウム 「施設園芸のグリーン化に向けた課題と展望」
11月18日(金) 14:00~18:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「なぜSDGs?~資源・材料循環におけるSDGs とカーボンニュートラル~」
11月19日(土) 13:30~17:00	双葉町産業交流 センター(ハイ ブリッド開催)	公開シンポジウム 「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2022ー原子力災害11年の総括と福島県農林水 産業の復興ー」
11月19日(土) 14:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム 『人類学者と語る人間の「ちがい」と差別』
11月20日(日) 12:30~17:45	日本学術会議講 堂(ハイブリッ ド開催)	公開シンポジウム 「物理学のアプローチが開く世界とその展開」
11月20日(日) 13:00~15:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「気候変動時代における市町村による新たな 森林管理とゾーニング」
11月21日(月) 13:00~17:30	東京大学医科学 研究所講堂(ハ イブリッド開 催)	公開シンポジウム 「新興医療評価技術の適格性認定システムの 構築とその課題」
11月25日(金) 13:00~17:15	オンライン開催	公開シンポジウム 「水産からカーボンニュートラルの未来を展 望する」
11月26日(土) 13:00~17:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育は どこへ向かうのか?」
11月26日(土) 13:30~17:10	香川大学オリ ーブスクエア多 目的ホール (ハイブリッド 開催)	中国・四国地区会議学術講演会 「VUCA時代における諸課題への分野横断的ア プローチ」

11月27日(日) 11:00~13:00	関西学院大学西 宮上ヶ原キャン パス B号館	公開シンポジウム 「SDGs と結晶学」
11月29日(火) 13:30~16:35	オンライン開催	公開シンポジウム 『連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた 農芸化学の挑戦」第4回植物科学からサステイ ナブルな農業生産・ものづくりへ』
12月2日(金) 8:30~9:45	パシフィコ横浜	公開シンポジウム 「品質保証と創薬研究」
12月4日(日) 13:30~16:45	日本学術会議講 堂(ハイブリッ ド開催)	公開シンポジウム 「人口減少時代の地域のかたち」

※新型コロナウイルス感染症の等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、
学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確
認ください。

歴史教育シンポジウム：歴史総合をめぐる(6)

「歴史総合」の教科書と授業を検討する

2022年10月29日(土曜日)午後1時30～17時30分
オンライン開催

このシンポジウムでは「歴史総合」について各方面から検討してきたが、2022年4月から「歴史総合」の授業がはじまり、教科書が使用されている。そして、教科書も市販され多くの人も見られるようになった。このようなことを受けて、どのような教科書が出来上がったか、学習指導要領とその解説の趣旨はどのように実現されたかなどを検討する。さらに授業で使う教科書とは何か、授業ではどのように利用されるのか、歴史用語の暗記中心の歴史教育から大きく脱皮した新学習指導要領の下で、「歴史総合」では、教科書はどのように位置づけられるか、教科書と授業の関係を検討する。

プログラム

開会挨拶

若尾政希 一橋大学教授・日本学術会議会員・日本歴史学協会委員長

趣旨説明

君島和彦 東京学芸大学名誉教授・日本学術会議連携会員

司会

中野 聡 一橋大学学長・日本学術会議連携会員

報告

黒川みどり 静岡大学教育学部教授

「歴史総合」のめざすもの—教科書の検討から

若杉温 千葉県立幕張総合高校

「歴史総合」の教科書分析と一年間の授業づくり

坂井俊樹 開智国際大学教育学部教授(東京学芸大学名誉教授)・日本学術会議連携会員

歴史教育実践と教科書

閉会挨拶

栗田禎子 千葉大学教授・日本学術会議会員

※参加ご希望の方は下記URL・QRコードよりお申し込み下さい(〆切10月28日)。
※報告レジュメ等は、当日、チャット等で共有させていただきます。

お申し込み <https://bit.ly/3QyoYVi>





第44回日本高血圧学会総会 市民公開講座

健康寿命延伸は高血圧管理から ～さあ家庭で自分の血圧を測りましょう!～

家庭でできる
血圧測定!

参加者の方には
カゴメのトマト・
野菜ジュースを
無料で
プレゼント!

高血圧の
自己管理!

2022
10/30日

13:30～15:30 13:00
受付開始予定

京都烏丸
コンベンションホール

〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下ル七観音町 634 TEL:075-231-6351

参加無料

定員400名

ご自身が高血圧の方、ご家族が高血圧の方など、どなたでも無料でご参加いただけます。

司会

荻原 俊男 森ノ宮医療大学 名誉学長
島本 和明 日本高血圧協会 理事長 / 日本医療大学 総長

講演 1

「家庭血圧が教えてくれるいきいき人生」

楽木 宏実

大阪大学 教授 / 日本高血圧協会 理事

講演 2

「楽しい減塩で血圧のコントロール」

上島 弘嗣

滋賀医科大学 名誉教授

血圧計抽選会

参加を希望される方はできるだけ事前にお申込みください。

当日受付は先着順となります。混雑が予想される為、裏面記載の要領でできる限り事前にお申込ください。お申込みいただいた方へ入場整理券をお送りします。応募多数の場合は抽選とし、入場整理券の発送をもって発表に替えさせていただきます。

共催：第44回日本高血圧学会総会、日本高血圧協会、
第29回国際高血圧学会、日本学術会議、
オムロンヘルスケア株式会社

協賛：カゴメ株式会社

後援：京都府 / 京都市 / (公財) 京都文化交流コンベンションビューロー、
京都新聞

郵便はがき

63円切手を
貼ってご投
函下さい。

6 0 4 8 1 6 2

（切り取り線）

京都市中京区烏丸通六角下ル七観音町 634
株式会社コンベンションリンケージ内
「第44回日本高血圧学会総会
市民公開講座」事務局 行

↑ FAX 075-231-6354

会場へのご案内



京都烏丸 コンベンションホール

〒604-8162
京都市中京区烏丸通六角下七観音町 634
TEL:075-231-6351

会場への交通

- 市営地下鉄烏丸線「四条」駅 21番出口 徒歩3分
- 阪急京都線「烏丸」駅 21番出口 徒歩3分
- 市営地下鉄東西線「烏丸御池」駅 5番出口 徒歩4分



市民公開講座「健康寿命延伸は高血圧管理から～さあ家庭で自分の血圧を測りましょう!～」(2022年10月30日)の参加を申し込みます。

お名前	(フリガナ)		
郵便番号			
ご住所			
E-mail			
電話番号			
FAX番号			
年齢	性別	男・女	
同伴者	有・無		
	お名前		

2名以上でご来場される場合には、代表者様のお名前でお申込みいただき、同伴者の欄へのご記入をお願い致します。(ハガキはお一人ずつ郵送いただく必要はありません。)

※ご同伴者様の入場整理券はお申込者様へご案内いたします。
別々のご案内をご希望の場合は別途お申込みください。

●高血圧に関するご質問をご記入ください。

お申込方法

お名前、郵便番号、ご住所、E-mail、電話番号、年齢、性別、同伴者の有無を明記の上、下記までお申込みください。

●お申込みにあたり記載された情報は、上記市民公開講座への出席確認、入場整理券、運営のみに利用し、その他の目的には使用しません。

1. メールフォーム **応募締切 10/21 金 15:00**

入場整理券をメールにてお送り致します。
印刷し、当日ご持参ください。

URL: <https://forms.gle/wBFBD4hD41yNCA7V8>



2. ハガキ **応募締切 10/17 月 必着**

申込ハガキ(左記)に必要事項をご記載の上、下記までお送りください。
10月24日頃に入場整理券をご案内いたします。当日ご持参ください。

【お申込先】 〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下七観音町634
株式会社コンベンションリンケージ内
第44回日本高血圧学会総会・市民公開講座事務局 宛

3. FAX **応募締切 10/19 水 必着**

左記必要事項をご記載の上、こちらの用紙を FAX にてお送りください。
10月24日頃に入場整理券をご案内いたします。当日ご持参ください。

FAX: 075-231-6354

【お問合わせ先】

〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下七観音町634
株式会社コンベンションリンケージ内
第44回日本高血圧学会総会・市民公開講座事務局
電話: 075-231-6357 FAX: 075-231-6354
E-mail: ohq-kyosai@c-linkage.co.jp

（切り取り線）

日本の社会・産業をリードする 化学系博士人材とは

～産学で取り組む博士人材育成と、
これから博士を目指す学生への期待～

開催日 2022年 **11月5日** 土 10:00～17:00

場所 日本学術会議講堂
(東京・乃木坂)(ハイブリッド開催)

- | | |
|-------|---|
| 10:00 | 開会挨拶・趣旨説明
関根 千津 (日本学術会議第三部会員, 株式会社住化技術情報センター代表取締役社長) |
| 10:10 | 基調講演 平井 良典 (AGC 株式会社 代表取締役 社長執行役員 CEO)
「企業で活躍する博士人材」 |
| 10:40 | 博士小委員会活動を踏まえて 西村 君平 (東北大学大学院理学研究科特任講師)
「学生から見た博士課程進学」 |
| 11:20 | 垣本 昌久 (三菱ケミカルグループ株式会社経営企画部長)
「企業が博士に期待すること～研究者とは異なる目線から見た博士のポテンシャルとパワー～」 |
| 12:00 | 休憩 |
| 13:30 | 住田 佳代 (住友化学株式会社理事・バイオサイエンス研究所長)
「企業が博士人材を求める理由と期待～住友化学の採用&入社後キャリアパスの実際を例として～」 |
| 14:10 | 杉森 純 (読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員)
「博士たちは今～化学出身の新聞記者が考える問題点～」 |
| 14:50 | 吉原 拓也 (北海道大学大学院教育推進機構先端人材育成センター長・教授)
「博士人材のイメージとリアル～博士・企業ごとに異なる現実～」 |
| 15:30 | 休憩 |
| 15:45 | パネルディスカッション (モデレータ: 関根千津) 上記講演者 |
| 16:55 | 閉会挨拶 茶谷 直人 (日本学術会議第三部会員, 化学委員会委員長, 大阪大学名誉教授) |

総合司会: 所千晴 (日本学術会議第三部会員, 早稲田大学創造理工学研究科教授・東京大学大学院工学系研究科教授)

主催: 日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会
協賛: 公益社団法人 化学工学会、公益社団法人 高分子学会、公益社団法人 日本化学会 (五十音順)
申込期限: 2022年10月21日(金)
右記 web ページよりお申し込み下さい。 <https://forms.gle/hE1Ln6prXQ89dkpLA>





日時	令和4年11月5日(土) 10時30分～12時00分
開催場所	テレコムセンター 1F 大ステージ (ゆりかもめ テレコムセンター駅直結)
ウェブサイト	https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/

主催：日本学術会議 持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD) 連絡会議・地球惑星科学委員会
共催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

地球惑星科学は、気候変動や災害などわれわれの身の回りの環境と深く関係していますが、物理・化学・生物などの基礎科学に基づいて成り立っています。その例として観測や計算に基づく大気科学と生命を育む星を探す挑戦とを取り上げ、第一線の研究者による紹介、聴衆との対話を通して基礎科学の面白さ、さらにはわれわれが暮らす地球とはいかなる惑星かということを知ってもらいたいと思います。

地球を取り巻く最先端の研究～教科書にまだ載っていない～



南極から地球の大気大循環の仕組みを探る

東京大学教授 佐藤 薫

大気重力波とよばれる大気波動の専門家。南極大型大気レーダー PANSY 計画代表。各国と協力してグローバルな観測を行い、気候モデルを組み合わせることで大気大循環のメカニズムを探っている。第44次南極越冬隊員。日本学術会議連携会員。福島県生まれ。



地球外生命の見つけ方

東京工業大学 地球生命研究所 所長／教授 関根 康人

専門は惑星科学、アストロバイオロジー。東京大学准教授等を経て現職。著書に「土星の衛星タイタンに生命体がいる (小学館新書)」などがある。東京都生まれ。

聴衆との対話～みんなで地球に思いをはせる～

地球についてまだわかっていないこと・不思議な現象
研究者がどうやって未知に挑んでいるのか、など語り合しましょう。

モデレーター： 水文学者・東京大学教授 沖 大幹

グローバルな水循環と世界の水資源、気候変動と持続可能な開発を研究。著書に「水の未来」(岩波新書、2016年)、「水危機ほんとうの話」(新潮選書、2012年)など。前国際連合大学上級副学長・日本学術会議会員・ローマクラブ正会員。





日本学術会議主催 学術フォーラム

安心感への多面的アプローチ

2022

11.5

土

13:00 - 17:10

共催 日本感性工学会

協賛 自動車技術会

COVID19の大流行、異常気象、他国からの侵攻、核爆弾利用の脅し、福島事故後の風評被害など、昨今、従来にも増して不安感の強い社会状況が続いている。一方、道路交通における自動運転など新しい技術や地球温暖化を抑制する施策の社会実装においては、その技術や施策が社会に受け入れられる形になっている必要がある。ここで、江戸時代の「知らしむべからず」施策による無知に根ざした安心感ではなく、寺田寅彦の「正当に怖がる」ことが重要である。本フォーラムでは、「科学技術基本計画」(第6期から「科学技術・イノベーション基本計画」)にも継続してうたわれている人々が安心を感じる社会を実現するために必要な科学技術について、多様な専門分野の研究者から事例や考え方をご紹介頂き、安心感の構成要素を明らかにすることで、人々が安心を感じる社会の在り方を議論する。

司会： 辻 佳子 (日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授)
大倉 典子 (日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所特任教授)

13:00 開会挨拶：吉村 忍 (日本学術会議第三部長、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授)

13:10 講演「ソーシャルメディアと安心感」 遠藤 薫
日本学術会議連携会員、学習院大学法学部政治学科教授

13:40 講演「医薬品と安心感」 土屋 文人
元日本薬剤師会副会長、元国際医療福祉大学教授

14:10 講演「AI と安心感」 佐倉 統
日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院情報学環教授

14:40 講演「情報学から見たつながりと変化と安心感」 柴山 悦哉
日本学術会議連携会員、東京大学情報基盤センター教授

15:10 講演「道路交通における自動運転と安心感」 須田 義大 日本学術会議連携会員、
東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長、生産技術研究所教授

15:40 講演「安心感モデルの適用」 庄司 裕子
日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授

16:10 休憩

16:20 パネル討論：モデレータ：大倉 典子 (前掲)、パネリスト：講演者、辻 佳子 (前掲)

17:00 閉会挨拶：須田 義大 (前掲)

参加無料

学術フォーラム【オンライン】

申し込みはこちら

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0199.html>





2022年度 日本学術会議公開シンポジウム

「自治体とエネルギー政策」

2022年

11月5日(土) 13:30-16:30

同志社大学 良心館地下1教室 (今出川キャンパス)

※オンライン (Zoom) による視聴も可能

13:30 ~ 13:35 開会挨拶

参加費
無料

大山 耕輔

■日本学術会議会員
慶應義塾大学教授



13:35 ~ 16:20 報告・コメント・討論

報告者



城山 英明

■日本学術会議連携会員
東京大学大学院教授

報告者



太田 隆之

■日本地方自治学会会員
静岡大学准教授

報告者



黒坂 則子

■日本地方自治学会会員
同志社大学教授

報告者



野口 市太郎

■長崎県五島市長

コメンテータ



金井 利之

■日本学術会議連携会員
東京大学大学院教授

司会



磯崎 初仁

■日本地方自治学会理事
中央大学教授

16:20 ~ 16:30 全体総括

16:30 閉会

今里 佳奈子

■日本地方自治学会理事
龍谷大学教授



主催

日本学術会議 政治学委員会行政学・地方自治分科会

日本地方自治学会、明治大学自治体政策経営研究所

2022 年度 公開シンポジウム「自治体とエネルギー政策」

<期 日> 2022 年 11 月 5 日 (土) 13:30~16:30

<参加費> 無料

<プログラム>

【開会】.....13:30~13:35

大山 耕輔 (日本学術会議第1部会員、慶應義塾大学法学部教授)

【報告】.....13:35~15:25

報告1: 城山 英明 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

「エネルギー政策における自治体の役割—原子力と再生可能エネルギーの場合」

報告2: 太田 隆之 (日本地方自治学会会員、静岡大学地域創造学環准教授)

「再生可能エネルギーと地域再生—公営電気事業に注目して」

報告3: 黒坂 則子 (日本地方自治学会会員、同志社大学法学部教授)

「太陽光発電設備の設置をめぐる法的紛争」

報告4: 野口 市太郎 (長崎県五島市長)

「五島市の再生可能エネルギーへの取り組み」

司会: 磯崎 初仁 (日本地方自治学会理事、中央大学法学部教授)

【コメント】.....15:25~15:40

コメンテータ: 金井 利之 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

【討論】.....15:40~16:20

【全体総括】.....16:20~16:30

今里 佳奈子 (日本地方自治学会理事、龍谷大学政策学部教授)

【閉会】.....16:30

<会場>

- 同志社大学 今出川キャンパス
良心館 地下1教室 (地下1階)
(〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入)
- ※ オンライン(Zoom)による視聴も可能です。

<参加申し込み方法>

- 下記の参加申し込みは、日本地方自治学会の会員以外の方が対象となります。
下記の URL または QR コードからお申込みください。

<キャンパスマップ>

URL:

<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/imadegawa.html>



URL:

<https://forms.gle/weN3ZyFmoCgyJgKF8>



<主催>

- ・ 日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会
- ・ 日本地方自治学会
- ・ 明治大学自治体政策経営研究所

皆さまのご参加をお待ちしております。

積雪・寒冷地域に おける暮らしの これまでとこれから

—— 持続可能な発展のための冰雪圏からの視座 ——

わが国は、夏季は温暖であるが、冬季は積雪や凍結に見舞われる地域が多く、人々は工夫を凝らしながら暮らしてきた。また、近代化に伴い、寒冷地ではない都市部でも少量の積雪や凍結が経済活動に混乱を来すようになっている。

本講演会では、日本のみならず世界にも目を向け、寒冷な地域での人々の暮らしについて、歴史学、社会人類学、農学、雪氷学、環境学の専門家からお話を伺い、今後、私たちの生活様式の変化や気候変動が寒冷地域にもたらす新たな課題と、その課題にどのように向き合っていく必要があるかを参加者とともに考えたい。

〈 日 時 〉

令和4年 **11月5日** 土
13:30~16:55

〈 開催形式 〉

オンライン開催
(ZOOMウェビナー)

※事前登録制(先着500名)

参加申込方法

参加を希望される方は10/30(日)までに下記URLまたは右のQRコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込の受付は終了します。



URL

<https://forms.gle/dPQkDNYKt1rPp94F9>

〈 現地会場 〉

東北大学片平キャンパス内
※事前案内済の関係者のみ現地参加可

〈 次 第 〉

司会進行：武藤 由子 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 准教授)

1 開会挨拶 13:30~13:40

日本学術会議会長 梶田 隆章
東北大学総長 大野 英男 (日本学術会議連携会員)

2 講 演 13:40~16:25

① 昭和初期の雪害運動について

伊藤 大介 (東北学院大学教養教育センター 助教)

② 北国の農業を支える寒さ、涼しさ、雪の恩恵

下野 裕之 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 教授、
岩手大学次世代アグリイノベーション研究センター センター長)

休 憩

③ 雪氷災害と雪氷環境およびその変化について

根本 征樹 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 雪氷環境実験室 室長)

④ 大気中の微粒子とその気候影響 — 積雪・寒冷地域での大気観測例を交えて

岩本 洋子 (広島大学大学院統合生命科学研究所 准教授)

⑤ 氷の文化誌—永久凍土の恵みと災い

高倉 浩樹 (日本学術会議東北地区会議会員、東北大学東北アジア研究センター 教授)

3 質疑応答 16:25~16:50

4 閉会挨拶 16:50~16:55

佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、
京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科 教授)

〈 お問合せ先 〉 東北大学研究推進課 TEL: 022-217-4840 E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

日本学術会議公開シンポジウム

カーボンニュートラル化と資源循環に向けた 高分子化学のチャレンジ

プラスチックは私たちの生活を豊かに彩る一方で、持続可能な循環社会という観点からは、原料を石油に依存した生産体制やプラスチックごみによる海洋汚染など、多くの課題をかかえている。これらの課題解決には、再生可能資源を原料としたプラスチックや、海洋を含む広範な環境下で安全に生分解される高度な生分解プラスチック、一次製品と同等レベルの再生品製造を可能にする水平リサイクル技術などの開発・普及が急務であり、生産から廃棄処理までのライフサイクル全体を見渡した材料設計が必須である。本シンポジウムでは、アカデミアの研究者に加えて産業界の研究者にも登壇いただき、これらの課題について、高分子科学、材料科学、環境科学、バイオテクノロジーなどの広い視野から多面的に議論する。



要参加登録
登録先はこちら

日時 2022年11月8日(火) 13:00~17:30

場所 日本学術会議講堂 (※状況によりオンライン開催に変更することがあります)

定員 250名(先着順)・どなたでもご参加いただけます。

参加費 無料

趣旨説明 (13:00-13:05) 吉江尚子(日本学術会議連携会員,東京大学生産技術研究所教授)

第1部 講演 (13:05-16:10)

「炭素循環からみるプラスチックとの付き合い方」

吉岡敏明(東北大学大学院環境科学研究科教授)

「カーボンニュートラルの実現を目指したグリーンバイオプロセスの開発」

乾将行((公財)地球環境産業技術研究機構主席研究員)

「炭素循環型高分子合成を目指して」

野崎京子(東京大学工学系研究科教授)

「カーボンニュートラルに向けた高分子産業での取り組み」

小林定之(日本学術会議連携会員,東レ株式会社化成研究所研究主幹)

「人類と自然環境の調和を目指した生分解性バイオマスプラスチックの挑戦」

岩田忠久(東京大学農学生命科学研究科教授)

「マイクロプラスチック問題の解決に挑む放射光利用のこれから」

佐々木園(日本学術会議第三部会員,京都工芸繊維大学教授)

「高分子化学に関わる研究開発への期待」

藤田照典(日本学術会議連携会員,三井化学㈱シニア・アドバイザー,
中部大学先端研究センター教授)

第2部 総合討論 (16:20-17:20)

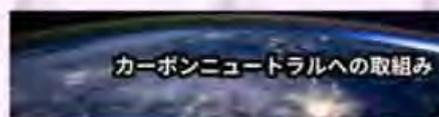
(パネリスト) 講演者+伊藤耕三 (モデレータ) 吉江尚子

閉会挨拶 (17:20-17:30) 伊藤耕三(日本学術会議連携会員,東京大学新領域創成科学研究科教授)

主催:日本学術会議 高分子化学分科会
NEDOムーンショット伊藤プロジェクト

後援:高分子学会

問合せ:polymer-challenge2022@gmail.com
(*を@に代えてください)



日本学術会議公開セミナー

動物のワクチン

～家畜を中心に～



参加登録
ウェビナー情報が
配信されます

主催: 日本学術会議
獣医学分科会/食の安全分科会
共催: 北海道大学獣医学研究院/連絡: scj-tox@vetmed.hokudai.ac.jp

2022年11月12日(土)10:00-12:10
(オンライン開催)

逐次通訳
付き

- 10:00 はじめに～動物のワクチンとは?
杉山 誠(日本学術会議連携会員、岐阜大学 副学長)
- 10:20 牛ピンクアイ(伝染性角結膜炎)のワクチンをつくる
John A. Angelos(カリフォルニア大学デービス校獣医学部 教授)
- 11:00 アフリカ豚熱のワクチンをつくる
國保 健浩(農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所 領域長)
- 11:30 野生動物の豚熱ワクチンをつくる
迫田 義博(北海道大学・大学院獣医学研究院 教授)
- 12:00 総括 渡辺 登喜子(大阪大学・微生物病研究所 教授)
- 12:10 閉会の挨拶
堀 正敏(日本学術会議連携会員、東京大学・農学生命科学研究科 教授)



日本学術会議公開シンポジウム
URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム 1922-2022
—日本の電波科学研究の発展並びに URSI 日本の歩み—



1. シンポジウムの名称

- ・ 和 文 : URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム 1922-2022—日本の電波科学研究の発展並びに URSI 日本の歩み—
- ・ 英 文 : URSI-Japan Centennial Celebration Symposium 1922-2022: Progress in Radio Science Research in Japan and the 100 Years Activities of the Japan National Committee of URSI
- ・ 英文略称 : URSI-JPN CCS 1922-2022

2. 運営形態

- ・ 主 催 : 日本学術会議電気電子工学委員会 URSI 分科会、URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム実行委員会
- ・ 技術共催 : 国際電波科学連合 (URSI) (申請予定)
- ・ 後 援 : 日本政府観光局 (承諾済み) ; 経済産業省、国土交通省、総務省、文部科学省、観光庁 (以上申請中)

3. 日 時 : 2022 年 11 月 12 日 (土) 10:00~18:35

4. 場 所 : 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34) (ハイブリッド開催)

<https://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>

5. 使用言語 : 英語

6. 参加費及び参加申込方法

無料、但し事前に参加申込が必要 (定員 : 日本学術会議講堂は先着 250 名、オンラインは先着 500 名)
2022 年 10 月 20 日正午から 2022 年 11 月 10 日正午までの間、以下から参加申込可能



<https://forms.gle/H2WqNsEac5ywG5Lv9>

7. 開催趣旨及び開催概要

本シンポジウムは、日本学術会議 URSI 分科会が中心となって準備を進めている「第 35 回国際電波科学連合総会」(URSI GASS 2023 : 2023 年 8 月に札幌市で開催予定) の重要な関連事業である。国際電波科学連合 (International Union of Radio Science : URSI) は 1919 年に設立された。日本が URSI に加入したのは 1922 年 (URSI 設立の 3 年後) である。よって、2022 年は URSI 日本の設立 100 周年に当たる重要な年である。本シンポジウムでは、URSI 日本の誕生 (1922 年) から現在に至る歴史、URSI 活動への我が国の貢

献、及び我が国における最先端の電波科学研究を概観し、電波科学分野の研究者及び一般社会に向けて電波科学の重要性を広く訴えることを目的としている。

本シンポジウム開催に際し、URSI 本部役員等（URSI 会長、URSI 前会長、URSI 元会長、URSI 副会長、URSI 事務局長、URSI 副事務局長等）を招聘し、シンポジウムでのご挨拶、URSI 設立 100 周年記念講演等を行っていただく。URSI 本部役員にシンポジウムにご出席いただくことにより、電波科学に関する URSI 日本の 100 年の歴史及び最先端の電波科学研究を知っていただき、併せて URSI GASS 2023 の準備状況を確認いただくことができ、有用である。なお、シンポジウム当日の午後には、URSI 本部役員による日本学術会議の梶田隆章会長及び高村ゆかり副会長、国際学術会議の白波瀬佐和子副会長及び小谷元子次期会長への表敬訪問を予定している。日本学術会議は今、国際ユニオンとの連携を深めることを重要課題としているが、この表敬訪問の場では URSI、日本学術会議、国際学術会議の間の国際連携に関する懇談も行っていただく予定である。

本シンポジウムの第一部では、主催団体代表挨拶、母体団体代表挨拶、来賓挨拶、及び URSI 事務局長による URSI 設立 100 周年記念講演を予定している。その後、URSI 本部役員による日本学術会議・国際学術会議役員への表敬訪問を経て、第二部及び第三部では、電波科学分野における著名な日本人研究者に特別講演を行っていただく。第二部・第三部の特別講演は、URSI 本部役員に日本の最先端の電波科学研究を知っていただく良い機会になる。

URSI は 2019 年に設立 100 周年を迎え、2019 年から 2021 年にかけて、世界各地で各種の記念プログラム・記念事業を実施した。その一つが約 600 ページにわたる URSI 設立 100 周年記念誌の出版（2021 年 8 月）である。我が国（URSI 分科会）は URSI 本部より招待を受け、この記念誌に約 40 ページの原稿を寄稿し、URSI 日本の設立経緯、URSI の活動に対する我が国の貢献、我が国における世界最先端の電波科学研究を紹介した。この記念誌は以下から入手可能である。

<https://www.ursi.org/publications.php>

8. プログラム

◇第一部「URSI 日本生誕 100 周年記念セッション」

10:00-12:00

(1 階講堂)

◇第一部総司会

小林 一哉（日本学術会議連携会員、URSI 副会長、URSI 副事務局長（AP-RASC 担当）、日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会副委員長、中央大学理工学部教授）¹

10:00-10:10 開会の辞・主催団体代表挨拶

八木谷 聡（日本学術会議連携会員、日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会委員長、金沢大学理工研究域教授）

10:10-10:20 母体団体代表挨拶

梶田 隆章（日本学術会議会長、2015 年ノーベル物理学賞受賞、東京大学宇宙線研究所教授）

10:20-10:25 母体団体代表挨拶（ビデオメッセージ）

Piergiorgio L. E. Uslenghi（URSI 会長、米国・イリノイ大学シカゴ校卓越名誉教授）

¹ AP-RASC: Asia-Pacific Radio Science Conference

- 10:25-10:35 母体団体代表挨拶
Peter Van Daele (URSI 事務局長、ベルギー・ゲント大学教授)
- 10:35-10:45 来賓挨拶 (オンライン)
小谷 元子 (日本学術会議連携会員、国際学術会議次期会長、東北大学理事・副学長)
- 10:45-10:55 来賓挨拶
松本 紘 (URSI 元会長、公益財団法人国際高等研究所所長、京都大学名誉教授)
- 10:55-11:05 来賓挨拶
安藤 真 (URSI 前会長、東京工業大学名誉教授)
- 11:05-11:15 来賓挨拶
Sana Salous (URSI 副事務局長 (WIRS 担当)、英国・ダラム大学教授)²
- 11:15-12:00 URSI 設立 100 周年記念講演
URSI: 100 Years of Radio Science Activities
(国際電波科学連合 100 年の歴史)
Peter Van Daele (URSI 事務局長、ベルギー・ゲント大学教授)

【昼休み】 (一般参加者 12:00-13:30 表敬訪問関係者 12:00-12:40)

◇URSI 本部役員による日本学術会議・国際学術会議役員への表敬訪問
12:40-13:25

表敬訪問出席者一覧

- ・ 日本学術会議・国際学術会議役員
梶田 隆章 (日本学術会議会長、2015 年ノーベル物理学賞受賞、東京大学宇宙線研究所教授)
高村 ゆかり (日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授) (オンライン)
白波瀬 佐和子 (日本学術会議第一部会員、国際学術会議副会長、東京大学大学院人文社会系研究科教授)
- ・ URSI 役員・元役員
Paul Cannon (URSI 元会長、英国・バーミンガム大学教授)
Peter Van Daele (URSI 事務局長、ベルギー・ゲント大学教授)
Giuliano Manara (URSI 副会長、イタリア・ピサ大学教授)
Willem Baan (URSI 副事務局長 (AT-RASC 担当)、オランダ・オランダ電波天文学研究所 (アストロン) 名誉上級研究員)³
W. Ross Stone (URSI 副事務局長 (総会・出版担当)、米国・Stoneware Ltd. 代表) (オンライン)
Sana Salous (URSI 副事務局長 (WIRS 担当)、英国・ダラム大学教授)
安藤 真 (日本学術会議連携会員、URSI 前会長、東京工業大学名誉教授)
小林 一哉 (日本学術会議連携会員、URSI 副会長、URSI 副事務局長 (AP-RASC 担当)、日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会副委員長、中央大学理工学部教授)

² WIRS: Women In Radio Science

³ AT-RASC: Atlantic Radio Science Conference

松本 紘 (URSI 元会長、京都大学名誉教授、公益財団法人国際高等研究所所長)

・ 日本学術会議 URSI 分科会役員

八木谷 聡 (日本学術会議連携会員、日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会委員長、金沢大学理工研究域教授)

芳原 容英 (日本学術会議特任連携会員、日本学術会議 URSI 分科会幹事、電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会主幹事、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授)

・ 特別講演講師

早川 正士 (URSI E 分科会元議長、電気通信大学名誉教授、株式会社早川地震電磁気研究所代表取締役)

黒田 道子 (日本学術会議連携会員、URSI WIRS Japan 委員長、東京工科大学名誉教授)

新永 浩子 (日本学術会議連携会員、URSI WIRS Japan 共同委員長、鹿児島大学学術研究院理工学域理学系物理・宇宙専攻宇宙情報講座准教授)

河野 隆二 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学名誉教授、一般社団法人 YRP 国際連携研究所理事・副所長)

大村 善治 (URSI H 分科会元議長、京都大学生存圏研究所教授)

伊藤 公一 (日本学術会議特任連携会員、URSI K 分科会議長、千葉大学名誉教授・客員教授)

◇第二部「日本における最先端の電波科学研究及び将来展望 1」

13:30-15:45

(1 階講堂)

◇第二部総司会

芳原 容英 (日本学術会議特任連携会員、日本学術会議 URSI 分科会幹事、電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会主幹事、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授)

13:30-14:15 特別講演

Study of electromagnetic noise for 50 years

(電磁雑音との 50 年の付き合い)

早川 正士 (URSI E 分科会元議長、電気通信大学名誉教授、株式会社早川地震電磁気研究所代表取締役)

14:15-15:00 特別講演

URSI-Japan centennial celebration and Women in Radio Science

(URSI 日本生誕 100 周年と電波科学における女性研究者)

黒田 道子 (日本学術会議連携会員、URSI WIRS Japan 委員長、東京工科大学名誉教授)

15:00-15:45 特別講演

Radio astronomy - A century of the history

(電波天文学 100 年のあゆみ)

新永 浩子 (日本学術会議連携会員、URSI WIRS Japan 共同委員長、鹿児島大学学術研究院理工学域理学系物理・宇宙専攻宇宙情報講座准教授)

【休憩】 (15:45-16:15)

◇第三部「日本における最先端の電波科学研究及び将来展望 2」

16:15-18:35

(1 階講堂)

◇第三部総合司会

八木谷 聡 (日本学術会議連携会員、日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会委員長、金沢大学理工研究域教授)

- 16:15-17:00 特別講演
Harmonization of scientific and commercial radio uses, and their social services and industrial innovation
(電磁波の科学利用と商業利用の共存・共栄および、社会サービスと産業イノベーション)
河野 隆二 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学名誉教授、一般社団法人 YRP 国際連携研究所理事・副所長)
- 17:00-17:45 特別講演
Active experiments of plasma wave excitation in space environments
(宇宙環境におけるプラズマ波動励起の能動実験)
大村 善治 (URSI H 分科会元議長、京大大学生存圏研究所教授)
- 17:45-18:30 特別講演
Therapeutic technologies of electromagnetic fields for cancer treatment
(がん治療に貢献する電磁界技術)
伊藤 公一 (日本学術会議特任連携会員、URSI K 分科会議長、千葉大学名誉教授・客員教授)
- 18:30-18:35 閉会の辞
小林 一哉 (日本学術会議連携会員、URSI 副会長、URSI 副事務局長 (AP-RASC 担当)、日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会副委員長、中央大学理工学部教授)

9. 本シンポジウムに関する問合せ先

- 小林 一哉 URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム実行委員会 委員長
Email : kkobayashi001q@g.chuo-u.ac.jp
- 八木谷 聡 URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム実行委員会 共同委員長
Email : yagitani@is.t.kanazawa-u.ac.jp

10. URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム実行委員会の構成 (2022 年 10 月 18 日現在)

委員長	小林 一哉	中央大学 理工学部 教授 URSI 副会長 URSI 副事務局長 (AP-RASC) URSI B 分科会 前議長 日本学術会議連携会員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 副委員長
共同委員長	八木谷 聡	金沢大学 理工研究域 教授 日本学術会議連携会員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員長
幹事	芳原 容英	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 教授 日本学術会議特任連携会員 日本学術会議 URSI 分科会 幹事 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 主幹事
幹事	石坂 圭吾	富山県立大学 工学部 教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 副幹事
幹事	尾崎 亮介	日本大学 理工学部 准教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 副幹事
幹事補佐	長坂 崇史	中央大学 理工学部 助教
幹事補佐	藤田 佳祐	前橋工科大学 工学部 助教
委員	安藤 真	独立行政法人国立高等専門学校機構 元理事 東京工業大学 名誉教授 URSI 前会長 URSI B 分科会 元議長 日本学術会議連携会員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
委員	伊藤 公一	千葉大学 フロンティア医工学センター 名誉教授・客員教授 URSI K 分科会 議長 日本学術会議特任連携会員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
委員	菅野 敦史	名古屋工業大学 工学研究科 教授 URSI D 分科会 副議長 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
委員	佐々木 謙介	情報通信研究機構 電磁波研究所 電磁波標準研究センター 電磁環境研究室 主任研究員 URSI K 分科会 若手キャリア代表 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
委員	佐々木 元晴	NTT アクセスサービスシステム研究所 無線アクセスプロジェ

		クト 主任研究員
		URSI F 分科会 若手キャリア代表
委員	佐藤 源之	電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 東北大学 東北アジア研究センター 教授
		URSI F 分科会 副議長
		電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
委員	篠原 真毅	日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 F 小委員会委員長 京都大学 生存圏研究所 教授
		URSI D 分科会 議長
		日本学術会議特任連携会員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 D 小委員会委員長
委員	上野 照剛	東京大学 名誉教授
		URSI K 分科会 元議長
委員	大村 善治	京都大学 生存圏研究所 教授
		URSI H 分科会 元議長
		電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 元副幹事
委員	多氣 昌生	情報通信研究機構 電磁波研究所 電磁波標準研究センター 電磁環境研究室 上席研究員 東京都立大学 特別先導教授・名誉教授
		URSI K 分科会 元議長
		電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 元副幹事
委員	蜂須 英和	情報通信研究機構 電磁波研究所 電磁波標準研究センター 時空標準研究室 主任研究員
		電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 A 小委員会委員長
委員	広川 二郎	東京工業大学 工学院 教授
		電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 B 小委員会委員長
委員	末松 憲治	東北大学 電気通信研究所 教授
		電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員
		日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 C 小委員会委員長

委員	牛尾 知雄	大阪大学 工学研究科 電気電子情報通信工学専攻 教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 E 小委員会委員長
委員	山本 衛	京都大学 生存圏研究所 教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 G 小委員会委員長
委員	小嶋 浩嗣	京都大学 生存圏研究所 教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 H 小委員会委員長
委員	久野 成夫	筑波大学 数理物質系 教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 J 小委員会委員長
委員	渡辺 聡一	情報通信研究機構 電磁波研究所 電磁波標準研究センター 電磁環境研究室 室長 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 K 小委員会委員長
委員	高田 潤一	東京工業大学 副学長・教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 元副幹事
委員	山崎 恒樹	日本大学 理工学部 特任教授 電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 委員 日本学術会議 URSI 分科会・電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会 元主幹事

公開シンポジウム
コロナ・パンデミックと格差・分断・貧困
——現状と今後——

主催：日本学術会議社会学委員会社会理論分科会
日本社会学会

開催場所：追手門学院大学総持寺キャンパス

開催日時：2022年11月13日14:00-17:00

参加無料 参加申込

コロナ・パンデミックは、単なる世界的疫病流行というにとどまらず、人びとの社会生活に重大な影響を及ぼした。しかしその影響は、それぞれの人の置かれた状況によって大きく異なった。そのため、21世紀に入って急浮上してきた格差・分断・貧困の問題は、いっそう苛酷なものとなった。本シンポジウムは、拡大する格差・分断・貧困の現状を多面的に分析し、「誰も取り残さない」明日を多くの参加者とともに展望しようとするものである。

14:00-14:10 開会挨拶&開催趣旨：

遠藤薫（連携会員、日本社会学会常務理事、学習院大学）

14:10-15:10 講演：

橋本健二（早稲田大学）現代日本における階級構造の変貌とコロナ・パンデミック

長松奈美江（関西学院大学）コロナ禍における生活困窮と支援制度の役割

石岡丈昇（日本大学）マニラのスクオッター地区からみるコロナ・パンデミック

15:10-16:50 パネル討論

司会：中村高康（連携会員、東京大学）

パネリスト：

有田伸（第一部会員、東京大学）コロナ・パンデミックと社会調査

筒井淳也（連携会員、立命館大学）コロナ・パンデミック

と職業・ジェンダー

村上あかね（連携会員、桃山学院大学）コロナ・パンデミック

とハウジング

岩間暁子（連携会員、立教大学）コロナ・パンデミックと家族

15:50-16:00 休憩 10分

討論 30分

全体討論 20分

16:50-17:00 総括&閉会の挨拶：

山田真茂留（連携会員、日本社会学会理事、早稲田大学）



日本学術会議 公開シンポジウム 「異なるモダリティを統合する バイオ計測の最前線と展望」

令和4年（2022年）11月15日（火）13:00～17:40

日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

（ハイブリッド開催）

※新型コロナウイルス感染の状況により変更の可能性あり

入場無料

事前登録制

こちらからご登録ください



主催：

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、
基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・
薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、
オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会、
基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会

共催：

日本生物物理学会

第1部「バイオ計測の最先端」

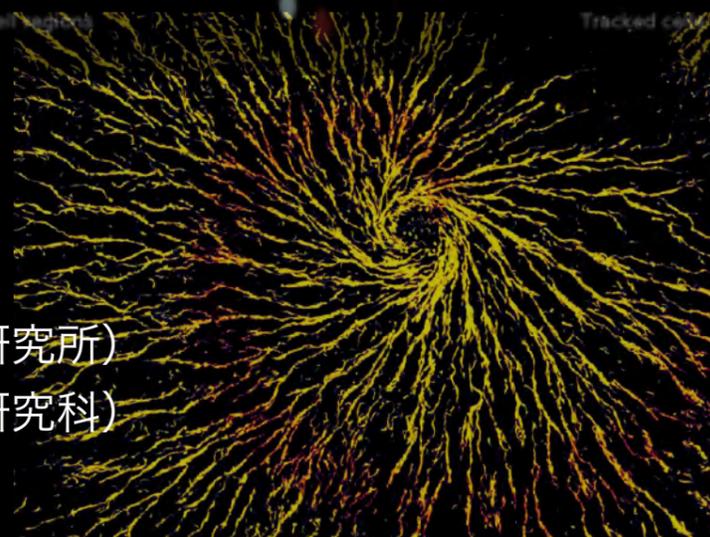
座長：原田 慶恵（大阪大学蛋白質研究所）

永井 健治（大阪大学 産業科学研究所）

竹山 春子（早稲田大学 理工学術院）

上野 直人（自然科学研究機構 基礎生物学研究所）

鈴木 穰（東京大学大学院 新領域創成科学研究科）



第2部「異なるモダリティの統合に向けた技術開発」

座長：坂内 博子（早稲田大学 理工学術院）

神取 秀樹（名古屋工業大学大学院 工学研究科）

渡辺 恭良（理化学研究所 生命機能科学研究センター）

大浪 修一（理化学研究所 生命機能科学研究センター）

山地 一禎（国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系）



総合討論

モデレーター：諏訪 牧子（青山学院大学理工学部）

パネリスト：シンポジウム登壇者全員

小林 武彦（東京大学 定量生命科学研究所）



施設園芸のグリーン化 に向けた課題と展望

「経済と環境の好循環」を実現する産業政策として位置づけられているグリーン成長戦略の推進に向け、食料安全保障の基盤を担う農業においても、環境に配慮した発展や持続性の確保、すなわちグリーン化の重要性が増している。本来、施設園芸は、栽培環境を改変することで、市場性の高い園芸作物を効率的に生産できる可能性を有しているが、環境制御にエネルギーを使用することもあり、省エネルギー化や環境負荷低減がより一層求められている。本シンポジウムでは、植物工場を含めた施設園芸のグリーン化に向け、ゼロエミッション、カーボンニュートラル、資源循環などの観点から、必要な研究・技術開発の方向性について、農業生産環境工学的視点を中心に議論する。

2022年11月15日(火)

13:00 ~

オンライン開催

参加無料

プログラム

挨拶 仁科 弘重 (日本学術会議第二部会員、愛媛大学学長)

講演

園芸施設の化石燃料ゼロ消費にむけた課題

奥島 里美 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人 農研機構 企画戦略本部スマート農業事業推進室)

植物工場における省エネ・省資源技術の海外動向

林 絵理 (非営利活動法人植物工場研究会副理事長)

施設園芸・植物工場のエネルギー・物質収支のモデリングと解析

後藤 英司 (日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究院教授)

高精度植物生体情報を活用した施設生産のカーボンニュートラル戦略

高山 弘太郎 (日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授・愛媛大学大学院農学研究科教授)

地域で発生する有機性廃棄物の施設栽培に向けた資源化

遠藤 良輔 (日本学術会議連携会員、大阪公立大学大学院農学研究科講師)

栽培施設の設置場所の最適化ー都市農業の可能性ー

荊木 康臣 (日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授)

閉会挨拶 大政 謙次 (日本学術会議連携会員、高崎健康福祉大学農学部長教授、東京大学名誉教授)

主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同
農業情報システム学分科会

後援：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、農業施設学会、日本農業工学会

参加申し込み：11月8日までに、ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp へてに、氏名、所属、メールアドレスをお知らせください

問い合わせ先：山口大学 荊木 Tel: 083-933-5864 E-mail: ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp